

## 10月定例教育委員会会議録（要点）

日 場	時 所	令和6年10月25日（金）午前10時00分 庁舎第3別館2階 会議室
出席委員		教育長 小澤和樹、委員 山本泰正、委員 長井俊朗 委員 竹田美和、委員 野間真美
会議に出席した 者の職・氏名		副教育長 鳥生敬二、教育政策局長 波頭健 教育大綱推進課長 鳥生幸司、学校教育課長 井上洋 生涯学習課長 畑紀輔、学校給食課長 清水恵蔵 教育大綱推進課長補佐 崎山憲一
傍聴人		一般1名
議 題		その他 今治市教育大綱推進実施計画の中間報告について  午前10時00分、開会を宣す
小澤教育長		日程番号1、9月定例教育委員会の会議録を承認してよいか問 う
—各委員—		承認する
小澤教育長		日程番号2、会議録の署名委員に、山本委員、長井委員を指名 する。
		日程番号3、教育長報告を行う
		質疑がないか問う
—各委員—		質疑なし
小澤教育長		<議題審議> 「その他 今治市教育大綱推進実施計画の中間報告について」説明 を求める
鳥生教育大綱推進課長		—「その他 今治市教育大綱推進実施計画の中間報告について」 説明—

小澤教育長

質疑はないか問う

野間委員

3番の「今治っ子の体カスポーツ応援プロジェクト」についての確認です。この中の「子ども体力向上対策事業」の対象はスポーツの得意な子、苦手な子、または全体になのか、どのような子なのでしょう

井上学校教育課長

本年度は4校、昨年度は5校の指定で、やりやすさや指導の行き渡りなどを考慮し1クラス30名程度で行っています。小学校4年生と中学校1年生が対象で、旧市内、陸地部の旧郡部、島しょ部の3か所に分かれて、教員が近くの学校に行き研修できる体制をとっており、市内のバランスをとりながら実施しているのが現状です。

野間委員

参加者はどうやって選ぶのですか。クラス全体ということですか。

井上学校教育課長

はい。その学年で1もしくは2クラスが取り組んでいる状態です。

野間委員

イングリッシュキャンプは好評で、拡充予定ということですが、英語は結構、子どもが変わるきっかけになったりするので、いろいろなレベルやシチュエーションでもっと回数を増やすとか、苦手な子もできるようにすると良いのではと思います。

次に11番不登校の対策についてです。コスモスの家の充実もありますが、今後さらに不登校の生徒さんが増えていくかもしれないとなると、先生の業務がこれから増えてくるのではないかと思います。各学校で担当される先生の補充もあるのでしょうか。不登校児童生徒は全員が同じレベルでなく、登校の頻度も違うし長期間来れない子もいるので、担任の先生だけでは大変だと思いますし、担任の先生と、学年主任、主幹教諭、教頭先生が対応するのでしょうか。特に保健の先生のような人はいないわけですよ。

井上学校教育課長

各学校で有償ボランティアが、不登校支援員として不登校児童生徒を支えていただいています。全部の学校で満足に支援が行えているわけではないですが、県費負担教職員の中には、不登校対策の非常勤もいますし加配もあります。ただ、その先生も授業を持っていますので、学校で支援体制をどう作っていくかは、校長を中心として、担任、学年部、また生徒指導部、養護教諭で検討しています。さらに学校によっては、コミュニティスクールや地域の方に協力いただいて、入れ替わり入っていただいている現状がございます。

学校や子ども一人一人によって事情が違うので、その子どもにどう寄り添い対応できるのかを検討し、できるように支援していただいているというのが現状でございます。

野間委員

丁寧に対応していただいていることがよくわかりました。

鳥生教育大綱推進課長

イングリッシュキャンプの拡充の件について、増やして欲しいというご意見をいただき、ありがとうございます。私どもも今年度初めて取り組んだ事業ですが、小中学校の児童生徒からの申し込みが、1日開催のもので300人を超え、そして宿泊のものも200人を超えてありました。来年度は、直営ですべてをすることが難しいと考えており、民間事業者に委託を検討し、回数を増やし、中身もより充実したものになるよう工夫して取り組みたいと考えております。

野間委員

準備も安全面の配慮もとても大変だと思います。例えば夏だけに限らず、今治らしさを出すのだったらFC今治高校や公立の高校生と一緒にやるとか、外国人の先生だけでなくもいいかもしれないですし、春とか秋とか、他のクリスマスと、いろいろ様子を見ながら自然に広げていけたらいいかなと思います。

鳥生教育大綱推進課長

ご意見として、頂戴いたします。それも含めて検討させていただきます。

竹田委員

現在、サポートルームやコスモスの家を、学校復帰を目指した第一歩として実施していると思います。サポートルーム等に来られるようになった児童生徒に対しての第二歩の学習面のサポートがまだ弱いと思います。サポートルームでは授業がないので、学習が追いつかない面があり、中学生ではテスト期間中に、放課後に学習相談をやっている学校もありますが、結局授業を受けてないので、学習相談で相談するところがわからず申し込みができないという意見も聞いています。

サポートルームの子どもだけというのも特別になってしまうのですが、サポートルーム内での学習指導をするなどの学習に対しての支援が必要なのではと思います。今後進学していくことも考えると、学校に来るだけでは難しいかと思いますので、そのあたりの第二歩も考えていただけたらと思います。

それとイングリッシュキャンプの件です。今後拡充していく中で、教育委員もどこかで見学できる機会を設けていただけたら嬉しいです。実際どのような形で実施されているかを見たいと思っています。

鳥生教育大綱推進課長

イングリッシュキャンプにつきましては、教育委員にご案内を差し上げるようにしたいと思います。

小澤教育長

イングリッシュキャンプをはじめ、私も毎月教育委員会で行事予定を報告しております。その中で、教育委員の皆さんにぜひ見ていただきたいものがありましたら検討させていただきます。

野間委員

そうしたら英語だけじゃなくても理科キャンプでも数学キャンプでも、この前も商店街でイベントもありましたけど、そういうことをやれば親しみやすくなるかもしれないですが、先生方の負担にならないように考えないといけないですね。もしかしたら若い先生方には何かいいきっかけになるかもしれません。

小澤教育長

成果を発表する機会があるのは、大人も子どももやりがいに繋がると思いますので、そこをまた検討していきたいと思います。

山本委員

一番懸念するのは、いじめや不登校対策についての対応です。このことについて何冊か本を読みました。最近読んだ集英社の著者おたとしまさ氏『不登校でも学べる～学校に行きたくないと言えたとき～』という本が特に学びになりました。現象を捉えて表層的な意見で右往左往してはいけない、専門的な見地や文科省の方針等を見て、市民の意見も聞く必要はあるが計画的に着実に進めていかなければならないと思います。私は時代認識や自分の考えを、本を読んで改めさせられました。

もう一点は、先ほどの課長の説明の中で、K P Iについては参考とさせていただきますと言われて安堵しました。今回の報告資料では、教育大綱を踏まえて具体的に実施している施策や事業の実施状況等は書かれています。総合教育会議の際は、その次の段階として、その結果、どのような課題や問題があり、その件について現在また今後こうしていく必要がありますと、解決に向けての対応策についても報告してほしいと思います。年1回の総合教育会議において、P C D Aサイクルを回していく一連の報告は、市長部局と協議をしていく際に必要だと考えます。

小澤教育長

以前にも山本委員から、このK P Iの数値が必ずしもオールマイティーではないという意見をいただきました。例えば11番の不登校児童生徒の支援、K P Iの目標数値が40%になっています。教室に復帰するなど達成できた後の課題について、教育委員会では、先ほどご指摘のあった「今後どうしていくか」を具体的に意識しているところがございます。いじめでも80%としたときに、その80%が達成できてよかったと見るか、残り20%はいじめがあるということで、その数値にどう目を向けるかという点について、今後の課題や取り組み、教育委員会の重点項目の中で意識してお

ります。

鳥生教育大綱推進課長

各事業の進捗状況だけを説明するのではなく、取り組んでいることに対しての問題や課題を教育委員と共有した上で、その次の手だてや、どう取り組んでいくかということ、この教育委員会の中で協議して決めていければいいかなと、いただいたご意見を踏まえて感じております。できる限り私どももそういう情報について教育委員会に出した上で、次にどういう手が打てるかを相談させていただければと思っております。

野間委員

資料の表ですが達成率AとBで、累計と単回のものになると思うのですが、字が小さくてわかりにくいし、見るときにどっちがAかBか考えてしまうので、普通の達成率にして、累計のだけを「達成率（累）」にし、このAやBを外して累を2段目に入れたらそれで済むのではないかと思います。その方がいろんな人を見てわかりやすいのではないのでしょうか。

鳥生教育大綱推進課長

ご意見ありがとうございます。一応Aに緑色、Bにピンク色を付けておりますが、これも見にくいので、一段ずらすとか、もう少し見やすい工夫をしようと思っております。

小澤教育長

議題を終了し、その他の意見はないか問う

竹田委員

前回の定例教育委員会の際、野間委員から日除けネットが飛んでいきそうで危ないというご意見をいただきました。その週にPTAの会がありましたので、その時に伝えております。多分対応してくれると思いますので報告します。

小澤教育長

前回、野間委員から質問をいただいていた教員採用試験で小学校に比べて中学校の受験倍率が高い理由はあるのかという件について、県教育委員会に問い合わせました。明快な答えはなかったのですが、中学校の方が専門的になり、教育学部以外の理学部や工学部や文学部などでも、国語や英語、数学などの教員免許を取るといった状況がございます。一方で小学校は教育学部が多いと思います。そのため、受験者数が多くなっているのではと県の担当者とやりとりしながら感じたところです。

結果的に一般企業を受ける方もいらっしゃるのですが、合格しても辞退とかの状況は起きてきます。はっきりしたことは分かりませんが、そういった状況です。

野間委員

先生のなり手が減ってきている悩みがある中で、小学校3年生

以上から教科担任制になっていくと、今後は小学校の教員の受験者が増える可能性もあるかもしれないですね。

小澤教育長

そうですね。県の教育委員会では受験時期を一般企業の就職活動時期と同じくらい早めることも思っているようですが、なかなか地元の大学との連携等も難しく、さらに時期的なものだけではなく教員の働き方改革とかそういったところが根本にあるのかなと思います。いろんな視点で教員の魅力を増やす必要があると思います。

小澤教育長

他に意見はないか問う

—各委員—

なし

午前10時42分閉会を宣す